

古代アッティカ杯

——ギリシア美術の比例と装飾の研究——

関 隆志

刊行のこぼ

本書の目的は、日本ではあまりなじみがないものの、欧米ではギリシア考古学研究の中心テーマのひとつに数えられるギリシア陶芸のうち、特殊なプロポーションを示す古代アッティカ杯の形体と装飾画の関係を、わかりやすく解説することにあります。その目的のため、本書は分析を含む解説編と、古代アッティカ杯の図版、そして調査結果を一覧する2つの資料の三部で構成されています。まず、序章で古代アッティカ陶器の製作過程、装飾画の種類等について基本的な説明を行い、古代アッティカ杯研究の位置づけが明確にされます。続く第I章から第VI章までは、古代アッティカ杯の外面に見られる装飾画法の進歩が解説されます。その際、杯の形体と装飾画が示す有機的な関係を証明することが中心になります。さらに、第VII章でそれまでの考察がまとめられ、古代アッティカ杯の形体、装飾画、さらには、陶工と画家の関係が署名の残る作品をもとに分析されます。

第二部には豊富な図版が提示されます。本書の図版は古代アッティカ杯の理解を視覚的に助けるために重要です。カラー及びモノクロ図版の写真は私が撮影し、モノクロ写真は自分で現像して焼付けました。モノクロ図版には古代アッティカ杯の側面、内面、そして外面の写真を原寸の5分の1に縮小して掲載しています。

本書の特色はなんといっても研究資料である古代アッティカ杯の大半が、私自身によって実測された点にあります。そのため、第三部には資料編として、本書の根拠となる古代アッティカ杯の実測値が一覧表とともに示されます。そして、本書の心臓部は測量条件を厳密に規制し、例外を排除した測量マニュアルにもとづいて集められた古代アッティカ杯の実測資料です。

本書は、伝統を誇る古典考古学の200年を超える歴史に比べれば、まさに大海に水一滴を加えるに過ぎません。しかし、日本の若い研究者の目にとまり、いつの日か、研究資料として活用されることを願ってやみません。

(本書「はしがき」より)

A5判上製函入 本文 300 ページ カラー口絵 8 ページ モノクロ口絵 142 ページ 定価 (15,000 円+税)

ISBN978-4-8055-0576-2 C3071

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは

古代ギリシアの美意識に永らく存在すると考えられてきた「黄金分割」。著者は500点を超す古代アッティカ杯の実測調査からその伝説を否定し、新しく星形五角形を基準とする「魔除けの分割」という比例関係を発見した。欧米の学界をも驚かせた画期的研究を一書にまとめる。

[著者略歴]

関 隆志 (せき・たかし)

1939年、京都市生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。ルール大学大学院歴史学研究科博士課程修了 (Dr. d. Phil.)。大阪市立大学名誉教授・宝塚造形芸術大学教授。アテネ考古学協会名誉会員・ドイツ国立考古学研究所通信会員。Lexicon Iconographicum Mythologiae Classicae (LIMC), Le Comité scientifique international (国際専門委員会) 委員。Künstlerlexikon der Antike, Band 1 u. 2, K. G. Saur Verlag, 2001 u. 2004 (執筆担当)。

目次

はしがき

序 章

第Ⅰ章 「眼の杯」

第II章 「パルメットと人物文フリーズの杯」

第Ⅲ章 「人物文フリーズの杯」

第IV章 ドーリスによる「パルメットと人物文フリーズの杯」の再生

第V章 古典期の杯

第VI章 Cタイプの杯

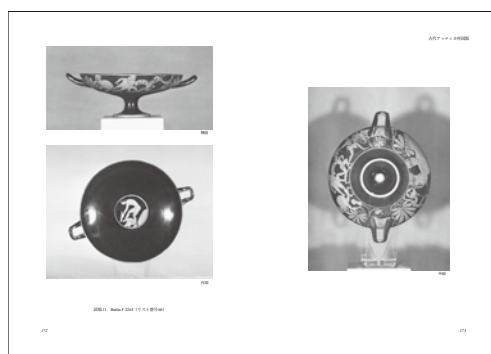
第VII章 分析

古代アッティカ杯図版

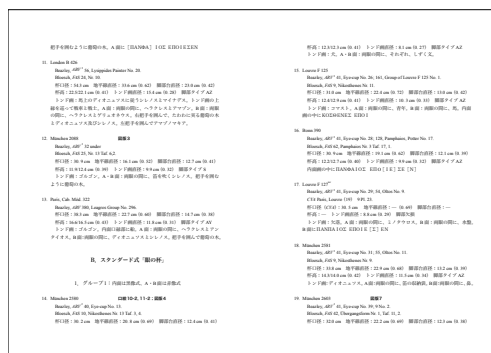
資料1 古代アッティカ杯リスト

資料2 表

古代アッティカ杯索引／あとがき



「古代アッティカ杯図版」 見本



「資料」 古代アッティカ杯リスト 見本

中央公論美術出版刊行 関係書

ギリシアの陶画家クレイティアスの研究 — 紀元前 6 世紀前半における
アッティカ黒像式陶器の展開 —

平山東子⁽¹⁾ 著

B5 判上製函入 本文 590 頁 定価 (本体 36,000 円+税)

アッティカ黒像式陶器の代表作〈フランソワの壺〉の陶画家であるクレイティアスを取り上げ、その作品の総体と編年を明確化し、様式、器形、装飾方法、図像表現、作品の機能などの考察を通じ、クレイティアスの全容の解明を試みる。

ロドス島の古代彫刻

芳賀京子（東北大学文学部准教授）著

B5判上製函入 本文710頁 口絵16頁 定価(本体35,000円+税)

ロドス島の彫刻活動を解明することは、古代ギリシア・ローマ世界の芸術活動を理解する上で、最重要課題である。本書は碑文、古文獻、出土彫刻の膨大な量の史料に詳細な考察を加え、最新の研究成果を集大成した金字塔。